

本山妙心寺の二世・微妙大師の六五〇年遠忌が来
年（令和九年）三月に行われます。松岩寺に割り
当てられた法要の日は左記です。妙心寺集合解
散などプランは自由。
日程予算ができましたら、申込み書を配付して募
集します。

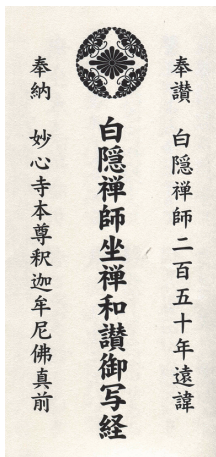
令和九年三月二十五日（木曜日） 十一時～十二時
京都市右京区花園・妙心寺法堂（はつとう）にて

※霊園管理費納付御礼

霊園管理費を大多数の方に納付いただきありがとうございます。
でございます。ただ、数軒のお家で未だ納付いた
っておりません。お納めくださるようお願いします。
振替用紙を紛失された方はお申し出ください。郵便
局備え付けの振替用紙で送金くださっても結構です。
郵便振替の口座記号番号は左記です。

（口座記号番号） 00150・0・372690
（加入者名） 松岩寺霊園管理費
〈普通銀行やコンビニのATMから送金する場合の口
座番号は次のとおりです〉
ゆうちょ銀行 ○一九（ゼロイチキユウ）店
（預金種目） 当座預金
（口座番号） 0372690
（口座名義） 松岩寺霊園管理費

やってます
あつまれ!
写経の日程



第4土曜日の午後1時半から4時半まで本堂で
写経ができます。

都合の良い時間に来て、ご自分のペースで写経
して、お好きな時間にお帰りください。ただし、
初めての時はなるべく一時半にご参集ください。
もちろん、檀家さん以外でも参加できます。
お友だちを誘ってお越しください

【写経】 令和8年下半年開催日

8月	休 会
9月	26日（土）
10月	24日（土）
11月	28日（土）
12月	26日（土）

日曜の朝の坐禅会（八月は休会です）



やってます

毎週日曜日の朝六時か
ら七時まで、松岩寺本
堂での坐禅に一般の方
も参加できます。

朝六時に鐘をつきます
から、それまでに本堂に入ってください。
初心の方にも丁寧に坐り方をご案内します。
三十分ほど坐って休憩、残りの十五分ほど
坐って、最後に般若心経をよんで七時には
終わりです。

【金つぎ教室】講師 花輪滋實

第四土曜日 午後一時半～四時半まで

【大人のためのリトミック】講師 大澤佳奈子

7月	11日（土） 午後三時～四時
8月	休 会
9月	12日（土） 午後三時～四時
10月	17日（土） 午後三時～四時
11月	7日（土） 午後三時～四時
12月	5日（土） 午後三時～四時



8月13日と15日と16日は墓地で、
花と線香を用意しています。
（8月14日は花と線香の用意はありません）

塔婆の申込みは郵便振替と、八月一日～三日に本堂でも受付。
どちらか、ご都合のよい方を！
詳しいことは、同封した「おせがき塔婆申し込み」をごらん
ください。

八月十五日のお盆法要（おせがき）は、九時三十分からと十時からの
二度法要をいたします。講師による法話はありません。

八月十五日

午前九時三十分～ 新盆の方と、密集をさけるため新盆以外の方が参列されても結構です

午前十時～ どなたでもご参拝ください

法要は儀式の進行をご案内しますので、焼香・水向けして本堂から退
堂し、塔婆を受け取ってお帰りください。塔婆は山門前建物の一階に
並べておきます。

境内の北、旧中山道に面したところに、伝道掲示板があります。

伝道掲示板

blog 版から

伝道掲示板には1ヶ月にひとつの言葉を紹介しています。經典の引用、詩や小説のなかの言葉であったりします。道ばたの掲示板ではお伝えできない、ことばの周辺はblogに載せています。松岩寺ホームページからブログへリンクしています。



写真 千田完治

蓮の葉は鏡のように円いというのに、同じ池に育つ水草の菱（ひし）は、実がとげとげしていて、まるで錐（きり）のようだ。『大慧語録』

七月のことば

朝

七時前に、寺の近くのバス停を通りかかった時でした。制服を着た女子高生がひとりと出勤の男性がふたり。合わせて三人が、バスを待っています。みんな同じような姿勢で、同じようにスマホをのぞき込んでいます。何の関係もない人たちが、同じ格好で同じような画面を指でたたいっている。異様です。こんなことは、過去の日常では見られなかった風景にちがいありません。

以前だったら（初代 아이폰 の発表が2007年だというからそれ以前）、バスを待つ三人のうち、ひとりは新聞紙をひろげて、ひとりは参考書を持つて、もうひとりはあくびをしている。そんな光景があったはずです。さて、七月のことばは、中国は宋の時代の禅僧・大慧（だいえ）禅師の『大慧語録』に収められています。「蓮の葉は鏡のように円いというのに、同じ池に育つ水草の菱（ひし）は、実がとげとげしていて、まるで錐（きり）のようだ」。拙い現代語訳は筆者です。原文の読みくだし文は「荷葉（かよう）团团（だんだん）として団（まる）きこと鏡に似たり。

菱角（りょうかく）尖尖（せんせん）として尖（するど）きこと錐に似たり」

荷葉は蓮の葉のこと。これは目にイメージを結ぶことができるのですが、菱（ひし）がわからない。『角川・俳句歳時記』は、「菱の実」を秋の季語として次の様に説明してくれます。「菱は池や沼に生える一年草。夏に白色の四弁花を水面に開き、花後結ぶ実は菱形で、左右に二個の角がある。若いうちは生で食べられるが、熟しすぎたものは茹でたり蒸す」

無教養無粋者で、菱なるものを見たことも食べたことはありません。一度、お目にかかってみたいのですが、同じ環境にあっても、円い蓮の葉が育ち、とがった実を結ぶ植物も生い茂る。同様に、人はそれぞれの個性があるのだから、異なる気質を大事にしなくては！ 禅には、「それぞれの個性を大事にしなさい」という言葉は多いのです。例をあげてみると、「鶏寒くして樹に上り鴨寒くして水に下る」などなど。いやだねー、坊さんは知ったかぶりして。禅語なんか引っぱり出さなくても、金子みすゞの「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。」でじゅうぶんではないか。

お盆も近く仏事における個性は、形をお供えするのではなくて、心をお供えすることだと思う。心はみんなちがうのですから。

「お盆の塔婆は、毎年同じことばを書いているのだろう」と思われるのも本意ではないから（ありていに言えばシャクだから）、裏面は毎年ちがう文句を書いています。今年「少水の魚に楽しみあり」。本山妙心寺の二世、微妙大師（みみょうだいし）授翁宗弼禅師（じゅおうそうひつ）一一九六〜一三八〇）がのこしたことばです。授翁宗弼が僧名で、微妙大師は昭和二年に天皇からいただいた諡（おくりな）です。「微妙」プラス「授翁宗弼」と名前だけで六文字もあるからわかりずらいけれど、分解してみれば、合点がゆくかも（あと六文字の諡があるのですが、それは複雑になるから記さない）。

興祖曰く 少水の魚に楽しみあり 令和八年盆会 建之

微妙大師のことばの原文は、「少水魚有楽」です。現代人にとって漢文は難解な、しろものになってしまったから、読み下して「少水の魚に楽しみあり」。少ない水ではやがて魚も窒息死してしまう。同じ様に人間も限りあるはかない時間を生きている。そうした、つねに変化する時間の流れにも「楽しみ」はある。といった意味でしょうか。

お盆の塔婆でひらがなまじりは去年に続いて二度目です。あまり正直に書きたくないのですが、ひらがなの方が字数が多くなって、書くのに時間がかかります。でも、漢字だけでは、誰も読んでもくれないだろうから、ひらがなのついた読み下し文にしました。「少水魚有楽」の心は下の「編集後記」に書きます。

編集後記

〇来年（平成九年）三月に本山妙心寺二世・微妙大師（みみょうだいし）の六百五十年遠諱（おんき）法要が営まれます。遠諱は、五十年に一度、祖師方や故人を偲ぶ節目をいいます。次回は二〇七七年になります。五十年後に元気にいる方は、今回あせる必要はないけれど、そうでない方は、ふるってご参加を。〇さて、上段でお約束した、「少水の魚に楽しみあり」の心です。漠然とした大きな「楽しみ」ではなくて、小さくても実体がある「楽しみ」が大事だとおっしゃっているのではないか。

〇たとえば、平成二十三年三月十一日。東日本大震災が発生した時、歌人の俵万智さんは、東京にいました。住まいがあった仙台へたどり着いたのは四日後。シングルマザーの俵さんは七歳になる独り息子を連れて、あてもなく西へ逃げます。その時、よんだ短歌が、ふたつ。「空腹を訴える子と手をつなぐ百円あれどおにぎりあらず」。そして「ゆきづりの人に貰いしゆでたまご子よ忘れるなそのゆでたまご」。ここで、注目したいのは、「忘れるな」と、命じているのは、「たまご」なんです。「ゆきづりの人への感謝を忘れるな」とは言っていない。感謝や感激、楽しみといったぼんやりとした心の動きは時間とともに風化していく。だから、そうした感情ではなくて、「ゆでたまごを憶えている」という。微妙大師のおっしゃっているのも、小さくても確かな「楽しみ」ではないか。でも、それってどんなの？

〇この欄の冒頭で、五十年に一度と書きました。でも、妙心寺が行う遠諱は、開山（一世）、二世、五世と三人おられます。単純に計算すれば、500年で約十七年に一度になります。なんで、遠い昔に亡くなった人の法要をするのか。教団の定期点検の意味があるように思うのです。点検して欠点が見つかれば直す。そうしてきたから、どうにか七百年もちこたえています。（博芳）



墓地では八月十四日をのぞく、
十三日、十五日、十六日に、
お花と線香を用意します。

2026夏

八月十五日のお盆法要（おせがき）は、
九時三十分からと十時からの二度法要
をいたします。

暑い季節です。
軽装でお参りください。

8月15日

午前九時三十分～

新盆の方と、密集をさけるため新盆以外の方が参列されて
も結構です。

午前十時～

どなたでもご参拝ください

法要は儀式的進行をご案内しますので、焼香・水向けして本堂から退堂し、塔婆
を受け取ってお帰りください。塔婆は山門前建物の一階に並べておきます。

ご都合で、法要に参列できず塔婆だけを受け取りにくる場合は、八月
十五日午前九時頃までか、十一時以降にお越しください。法要時間中
は、駐車場と周辺道路が混み合います。法要に参列しないで、お塔婆
だけを受取りにこられる方は、法要時間外がすいていて、駐車も無理
なくできます。

お盆にお配りする お菓子と餓鬼幡について

八月十五日に塔婆といっしょに、持ち帰っていただく、砂糖菓子と餓鬼幡（がきばた）については以前にも書きました。今年も書き直して、お届けします。だって、去年のことなんて忘れてしまうもの。それに、毎年書いても、読んでない人もいるだろうから。

菓子について書きます。

八月十五日にお塔婆と一緒に持ち帰っていただく砂糖菓子は、梅林堂特製です。手作り



だから、なるべく早いうちに、賞味ください。と、ここ数年、おせがき法要に参列した方には申しあげていますが、いくつかの墓地にこのお菓子が供えられています。

菓子の包装紙に「お供物」と印刷されているから、盆送りのついでに、墓地にお供えするのですが、これはあやまりです。数年前からは「お菓子」と印刷しています。

だいたい、お供物というのは、お供えしたらそのお下がりをいただくのが正しいエチケットです。

ひとつひとつ職人さんが作ってくれた菓子です。仏壇や施餓鬼棚にお供えしたら、供えたままにせず、おさがりを美味しいうちに、お召しあがりください。

塔

婆といっしょに持ち帰る、紅白の砂糖菓子は墓地に供えてはいけないけれど、餓鬼幡（がきばた）と呼ばれる五色の旗は、盆送りの時に、塔婆と一緒に墓地に供えてください。

五色と書きましたが、みなさんにお配りするのは、「青・黄・赤・白・黒（紫）」の五色のうちの三色です。ほんとうは、五色なのですが、竹ひごに五枚は多くてはさめないから、三色で代用しています。五色は、東西南北中央をあらわしているともいいますし、青が春、赤が夏、白が秋、黒が冬、そして季節の変わり目の土用が黄色の四季をあらわしているともいいます。ご先祖様はこの幡を目当てにするとも、これを田畑にたてれば、豊作になると信じられていたとか。

田畑にお盆の五色幡をたてる風習はまだ残っている地域もあるのではないですか。だから、寺から持ち帰った五色（三色）幡は、自宅の玄関や庭にさしてもよいのですが、片づけにくいだろうから、墓地へ供えてください。

